

## 「海を隔てた3町村で訪問リハビリテーションを展開した事による成果と課題」

隠岐島前病院 作業療法士 藤原 翼

### 【はじめに】

当院がある隠岐島前地区では38%の高齢化率や交通の不便さが伴い、通院が困難な患者の例が多数ある。訪問リハビリテーション（以下、訪問リハ）を充実させるため、理学療法士・作業療法士（以下、PT・OT）を増員した。対象地区の3町村（西ノ島町、海士町、知夫村）で少しでも多くの患者がより良い在宅生活を送れるようサポートする事が必要である。

### 【経過】

平成21年度OT1人の年には、西ノ島町の訪問リハしか展開できておらず、年間の訪問リハ件数も565件であった。その時の実績や今後の展望を町に提出し、3人のPT・OTを増員した。平成22年度にはOTが3人に増員になった事で海士町での訪問リハも可能になり、年間の訪問リハ件数も1384件に増加した。海士町で訪問リハを開始すると、船で海を渡っての訪問リハになるため、交通費や時間についての話し合いを行った。平成23年度にはPTが加わり4人体制になった事でさらに1668件にまで増加している事から需要の高さが伺える。海を渡って海士町へ訪問リハに行くようになり、要介護5から杖歩行にまで回復した例もあるため、平成24年度からは知夫村での訪問リハもスタートしている。

当院のある西ノ島町では、月に2回多職種で集まる会議にPT・OTも参加している。この会議では、多職種から自宅で困っている方がいるという情報が入ると、その場でサービスを検討し訪問リハの必要がある方には日程を調整してケアマネージャーとすぐに訪問する。だが、海を隔てた海士町、知夫村では多職種で集まる場はあるものの、PT・OTが参加できていない。そのため、ケアマネージャーからの情報しかなく訪問リハを必要としている方を全て把握する事はできない。また、多職種の目線からの情報が入りにくい。

### 【課題】

PT・OTを増員し、各町村との話し合いを行い、多くの高齢者に訪問リハを提供する事は可能になった。しかし、多職種連携についての話し合いができていなかった。この2年間各町村での訪問リハを実施し、海を隔てる事で連携が難しくなるという事が分かった。今後は、海を隔てていても多職種が集まりやすい方法や場所、時間を検討していく必要がある。そして、さらにPT・OTを増員し海士町や知夫村にも週2回、3回と必要に応じて訪問リハに出かけなければならないと考えている。

隠岐広域連合立隠岐島前病院

白石吉彦、白石裕子、浜田拓史、向原翔子、藤原翼、末長真之介